



慶應義塾の「環境・安全・健康」への取り組みについて

慶應義塾は環境、安全、健康に関わる課題について、教育、研究、医療、地域社会・国際社会への貢献、キャンパスの整備等々にわたり活発な活動を続けてまいりました。それらの活動の一部を以下にご紹介します。

1) キャンパスの環境配慮設計

(1) 日吉キャンパス協生館の「CASBEE 横浜認証制度」最高位 S ランクの取得

日吉キャンパスに建設中の「協生館」は、「CASBEE 横浜認証制度」の第一号として最高位 S ランク認証を受けました。CASBEE とは、建築物の環境品質・性能と環境負荷を同時に評価する全国共通の尺度として、国の支援を受け、産・学・官共同で研究・開発された評価システムで、約 90 ある評価項目を採点し、「S ランク(すばらしい)」から「C ランク(劣る)」までの 5 ランクで格付けするものです。

(2) CO2 削減を進めるための高効率なエネルギー設備・機器の導入と、運転管理への配慮

上記の他、大気汚染防止、節水対策、廃棄物削減、実験に使われた廃棄物や医療系廃棄物の適正管理等を進めています。また、湘南藤沢キャンパスでは、自治体との協定に基づき、敷地面積(32 万 5700 m²)の 51%を緑地とすることを守っており、そのほかすべてのキャンパスでその環境に適切な樹木管理・植樹計画を通じて緑豊かな環境を目指しています。

2) 環境に関する研究・教育活動

総合大学である慶應義塾は、様々な学問分野において環境・安全・健康に関する研究、教育活動が行われています。中国瀋陽の砂漠に 10 年に渡って植林を続け、総延長 100km の緑の防砂林の育成、資源循環型社会の制度設計、環境経済、有害要因と健康に関わるリスク評価とリスク管理、空気中の有害ガス成分だけを捕集する空気清浄技術、環境負荷の少ない建築など、様々な研究を行っております。

3) キャンパス耐震化と防災対策

1995 年の阪神・淡路大震災をきっかけに、1995 年度～1998 年度にかけて保有する建物についての耐震診断を実施し、その結果に基づいて 2003 年度から耐震補給工事を進めています。創立 150 年記念事業期間終了予定の 2015 年秋までには、全キャンパスの耐震化が達成される見込みです。

その他救命救急対策として AED の設置と BLS (Basic Life Support) 教育の実施を行っています。

これらの取り組みについて「慶應義塾 環境・安全・健康へのとり組み 2008」を発行いたしました。詳細は WEB サイトでご覧いただけます。<http://www.keio.ac.jp/kankyo.pdf>
また、本誌ご希望の方はお届けいたしますので、ご連絡ください。